

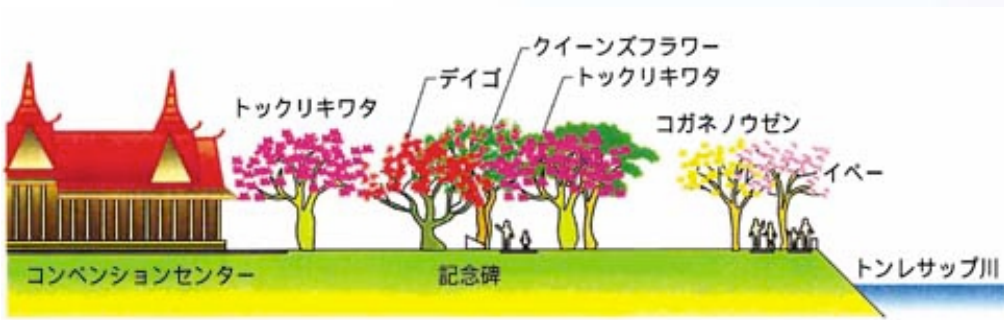
カンボジアで「沖縄の心」を発信

〜 沖縄平和賞・花の平和交流事業 〜



カンボジア語、日本語、英語の三カ国語で記された記念碑

美しい花が咲くのを楽しみに、県花のデイゴのほか、イペー、コガネノウゼン、トックリキワタなどを植樹した



沖縄県民が長い歴史の中で培ってきた平和を希求する「沖縄の心」を外国の地で発信する旅が実現しました。十一月二十日から二十四日にかけて、沖縄平和賞委員会会長の稲嶺知事をはじめ約百五十名がカンボジア王国を訪れ、花の平和交流事業植樹式などを通じて同国との交流を深めました。二十一日午前に行われた植樹式では、国の復興に努めるカンボジアの人々と、平和を希求する思いを花木を通じて共有することができました。



カンボジアってどんな国？



- ・面積：18.1万km²（日本の約1/2弱）
- ・人口：1,170万人
- ・首都：プノンペン
- ・宗教：仏教（上座部仏教）
- ・国民1人あたりGDP：253USドル
- ・平均寿命：男51.5歳 女55.0歳
- ・略史：12世紀 国家統一、アンコールワット建立
1431年 アユタヤ朝（タイ）侵攻
1863年 フランスの植民地となる
1953年 ベトナム戦争に巻き込まれる
1975年 ポル・ポト政権誕生
1993年 新生カンボジア王国誕生



国の誇りと人間の尊厳

参加者一行は、今回の旅でカンボジアの光と影に出会いました。人間一人ひとりの命の尊さと伝統や文化の素晴らしさをあらためて実感するとともに、恒久平和への思いを新たにしました。



世界の三大遺跡のアンコール遺跡群は、カンボジアの悠久の歴史と文化を物語っており、カンボジア国民の誇りを象徴している



悲しい歴史を再び繰り返さないために、トゥールスレン博物館では、あらゆる職業の罪なき人々が拷問・処刑された事実を伝えている



式典で披露されたカンボジア舞踊と琉球舞踊「四つ竹」

花の平和交流事業 植樹式



式典で挨拶をするカップ・チョテマープノンペン市長と稲嶺知事。市長は「贈られた花木を市民とともに大切に育てていく」と述べた

花の平和交流事業記念 レセプション

植樹式の日の夕方に開催された記念レセプションは、琉球舞踊「かぎやで風」で幕を開け、かたことの英語や元日本留學生の通訳を介して楽しく会話が弾み、友好を温め交流を深めました。



元ウチナー民間大使のシム・サミット氏と現同大使のニ・キムサン氏は、日本語でスピーチしてくれた



創立30周年を記念して、県造園建設業協会よりプノンペン市の緑化に役立てるための種子が贈呈された



クメール伝統織物研究所で沖縄の織物との共通点を発見



カンボジア王立芸術大学では、通学前の早朝練習が行われている

伝統文化の交流

ボル・ポト政権時代に、数多くの古典・民族舞踊の踊り手や伝統織物の技術者が弾圧を受け、尊い命が奪われました。生き残った数少ない指導者達は、若い世代に伝統文化を継承する喜びと責務をかみしめながら毎日の指導にあたっています。



新しい交流の動き

植樹式に先立ち現地の小学生が「ブノンペン・沖縄友好の広場」の碑の台座に装飾を施しました。また、県内の小中学校との間で作文と絵を交換する交流が行われました。

【交流校】
 沖縄県
 佐手小中学校（国頭村）
 糸満小学校
 ブノンペン市
 クパール・チュロイ・さくら小学校
 チュロイ・チャンワー小学校



ウチナンチュの活躍と子ども達の未来



カンボジアで活躍するウチナンチュがいます。牧師のケン・ニールセンさんと妻の勝子さん（読谷村出身）は、身寄りのない十四名の子どもの引き取って一緒に生活しています。子ども達が自立できるようにと特に教育に力を注いでいます。

お問い合わせ：沖縄平和賞委員会事務局（県平和推進課内）Tel：098-866-2500 FAX：098-866-2589

スタディーツアー参加者の声

NPO法人沖縄平和協力センターが企画したスタディーツアーの参加者は、地雷除去や小型武器回収等の活動をしている現地NGOを訪問し、活発な議論と貴重な体験をしました。

いかに僕たちが恵まれすぎた環境に生まれ育ち、戦争を知らないのか、一方で日々の生活のために幼い子供までもが働かなければならない、戦争を経験して間もない国があるという現実を肌で感じることができました。今まで身近に感じなかった国が好きになり、その発展を心から願えるようになったのが一番の収穫であり、同じく多くの若者が実際に現地を体験することで世界中の国々と友好の心が育まれていくと思います。

川上 伸一



私達は首都だけでなく農村まで行って、除隊兵士支援を受けている家庭を訪問しました。日本のNGO・ODAは有効に機能しているようですが、その日暮らしが精一杯でまだまだ問題は山積みです。しかし、人々は皆、心の底から笑っているようにとても美しい笑顔で笑います。豊かさの基準は経済水準で計ることができません。「美しい笑顔と大自然」というカンボジアの財産を生かした発展が重要だと感じました。

比嘉 陽子



県内のNGOもカンボジアにおいて、教育分野などで活動を行っており、子ども達の将来を支援しています。



沖縄平和賞委員会から「沖縄学校」の児童3,000名にノートと鉛筆を贈呈した